

2018 年度年間テーマ 20周年を迎えて一原点をみつめ直そうー

三〇歳の時、生れたばかりの次女を義父母に預け心臓病で入院生活を送りました。

四〇年前、まだがんの治療が難しかった時代です。同室には同世代の二人の若いがん患者さんがいました。カーテン越しに聞こえたドクターとの会話はショックでした。

「先生、もうだめなんですね」

「そんな気弱なことを言っちゃだめだよ」
二歳の女の子がいるお母さんです。

「先生、私死ぬんですね」

「いや、絶対に死なせません」

四年生くらいの一息子がいました。

二人は考え考えて、勇気を振り絞って質問したのでしよう。ドクターも突然の質問に心を痛め、精一杯の励ましの言葉だったのでしよう、が・・・。

その後、先生との会話は無くなりました。

あの時代、あの時、あの状況で、二人はどんな言葉が欲しかったのだろうか。怖くて聞かなかったふりをして過ごした私は、一緒に泣く事さえできなかつた。

その時の後悔と答えを探しながらの二〇年です。ホスピスケアって何なんだろう。

傷つけてしまったかなあ、間違っているかなあ。足りなかつた。言わなければ良かった。自信のない毎日です。

(橋詰清子)

勉強会

いのちをみつめてー死を語ろうⅡー

10月20日(土) 13:30~16:00 岡崎福祉会館 301号室



内容】

「死を語ろう」2回目です。4つのルール(批判しない・指導しない・割り込まない・人に話さない)を皆さんで共有してから、前半は6つのグループでの分かち合いを行いました。

休憩をはさみ後半フリートークでは、

- ①運営委員の柴田貞子さんから、科学雑誌「ニュートン」最新号より科学的な「死」についての報告。脳死の国々の考え方、独米英国では60~71%日本は43%が「脳死=死」を認めていることなど。
- ②真言宗大谷派西照寺坊守の和田あい子さんより仏教の「死」の考え方についてお話。六道輪廻のお話や生きると死ぬとは表裏一体であること、終活は大切だがまず自分自身が信じられることの大切さ、仏の力・念仏の力によって救われることなどを話してくださいました。
- ③カトリックの聖ドミニコ宣教修道女会シスターマリア小林三佐子さんより、キリスト教は「死」をどう捉えているかのお話。死は終わりではなく、新しい世界、神様のもとに帰っていき、先に亡くなった方と再会できること、転生輪廻はないと考えていること、どんな状態でも魂はいきいきと生きることができることを話して頂きました。

その後、全員で話足りなかつたこと、質問などをし終了しました。(永谷美雪)

【感想】

- ・小グループでの他の人の苦しい心の話がとても参考になりました。
- ・いろいろな死のとらえ方が話し合えてよかったと思います。ホスピスケアということで終末期の方の家族のお話が伺いたかったです。
- ・心のケア（ホスピス）愛知病院のすばらしい緩和について！もっと発展してほしいです。国が決めた制度をもっと見直してほしいと考えます。人と寄り添って生きられたら良いかなあと考えます。死とはいつも隣りどおしと思っています。生まれかわる。のこされた人生を精一杯生きる。笑って前に進めたら幸せかなと思っています。生きることは簡単にはいかない事が多いけれどすべてに感謝を持って生きられたら幸せなのかも。



- ・カトリックキリスト教のお話をお聞きできとても嬉しく思いました。カトリックの友人はいますが、死について話を聞いたことがなかったので、今日お聞きできて良かったです。またシスターのお話が聴きたいと思いました。
- ・いろいろな人の体験、生のすさまじい体験を直接聞いてとても貴重な体験でした。他者の人の意見、考え方を聞くことはとても良いことだと思いました。
- ・普段の生活で死を語ることはないので皆さんの話が聴けて良かった。シスターさんの生徒さんの死の話は胸がいっぱいになりました。死の苦しみ、恐怖は体験した人しか分からないと思いました。
- ・セミの死 紅葉→落ち葉 両親友の死。死はいつでもここにあるのに・・・。
- ・活字の中に潜む架空の人物の心に感動し、また見えない想像力で描いたものに怯えている。今日は生きている目の前の人の声に魂が揺さぶられました。やはり信頼し正直に真剣に話し合える人たちに触れると、一生心に残ると思います。
- ・小グループの話し合いは「死を語ろう」というテーマがあったので、どの方もご自分の経験、思いをたくさん語られ、良い時間が持てました。仏教の死、キリスト教の死。科学的な死についてもっと具体的に聞きたいです。
- ・自分の死についてはあまり考えておりませんでした。この機会によく考えてみたいと思います。
- ・「死に方は生き方」と頭ではわかっているても実感なく今日参加させていただきました。でもふっと立ち止まり足元をみる良い機会を頂きありがとうございました。
- ・父の死について、父を看取った時の苦しかった体験を聴いて頂きました。〇〇さんが「今日ここにきて話されることはお父さんが背中を押してくださったのかも知れないね」と言ってくださり“ああそういうことか”と心に落とし込むことができました。ありがとうございました。

- ・樹木希林さんの生き方、お話いいですね。生きるのはエネルギーのいる事、これから考えていきたいです。
- ・2回目の話し合いはずいぶん深くなりました。樹木希林さんの逝き方に感銘を受けた話がでました。多くの方が考えたことと思います・今日この席に座らせて頂いたのも自分の意思であるかのように思われますが、全て神さまから頂いた贈り物（場所、時、人）と思われました。
- ・シスターマリアさまのお話がとても心にしみています。
- ・仏教の教え 死⇄生きる カトリックの教え 死が死で終わらない
家族の死の苦しみを他の人に話すことによって受け止めてもらうことで残された家族が救われる。
- ・宗教家のお二人の話しがとても胸に響きました。「もっと聞きたい！」と思いました。小グループでの話し合いは、普段生活していると気づかない、みんなそれぞれ大変な経験や思いを体験されていることを知りました。想いを共有することで「私はひとりじゃない」と感じる事ができました。

恐る恐る娘に病状問ふ我に娘は淡々とステージ4と
 四人子を残して天に召されし子痛み解かれて天に遊ぶや
 親より先に逝くなの言いつけ守らなかつたね娘ははばたきぬ
 飛びつきの笑顔ふりまく娘なり遺影となりて四人子見つむ
 春待たず天に召されし子のために春色の着物そっとかけやる



“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり
 第3木曜日 10:00~12:00 事務局（橋詰宅）

月に一度開かれるこの会に、やっとの思いで話せることがある。話を聴いて気が付くことがある。自分と同じことを考える人がいるんだと、安堵することがある。

日々の生活は何かすることばかり、顔を洗う、料理をする、掃除をする、風呂に入る……。体を動かして現実を生きる。日常の動作は自然と動いて、思考は自由に過去にも未来にも行ってしまふ。これが曲者ではないかこの頃思うのです。どうにもならない過去を悔やみ、はっきりしない未来を憂う。これが不安を生み出す元か？

不安とはっきりしない事を想像力で作り出す感情ではないかと。良い想像力はさておき、不安になってしまう思考は動作に集中する、心を込めることで、過去や未来に飛ばないようにしたらどうか。

それでも心の不安が残っているときは、「つどい」で頭の中のことを解き放してみる。きっと気づきや安堵することでしょう。

12月20日は今年最後の「つどい」です。不安を持ち越しされませんように。（縄田昌子）

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を作り届ける。
・第2月曜日 10:00~12:00 愛知病院地域緩和ケアセンター・各自宅

「どこへ行くの?」「雑巾縫いのボランティアに!」「へー エライね」「そう?」
ボランティアという言葉はどういう意味? 私にとって雑巾縫い場は心がほっこりするいやしの場です。わずか2時間で縫えるのはわずかですが、帰る時は心が田舎の我が家へ帰った時と同じです。あとどのくらい続けられるかわかりませんが、その時まで楽しみたいです。(稲垣直子)

♥手縫いの雑巾にするタオルをご寄付いただけないでしょうか。洗ってあれば使って古くなったもの充分です。よろしくお願いします。



緩和ケア病棟ボランティアの報告

ティーサービス・アロママッサージ・季節の模様替え・楽器演奏
毎週金曜日 1:30~4:30 愛知病院緩和ケア病棟
アロママッサージ 毎週火曜日 13:30~15:30 練習日 第4金曜日 11:30



〈家族会に参加して〉

10月20日(土) 14:00~16:00

地域緩和ケアセンターに於いて15家族、17名の方の参加、スタッフは看護師11名医師3名で、第13回家族会が開かれました。勉強会と重なってしまい3名で配茶のお手伝いをさせていただきました。

3つのグループにそれぞれのスタッフがついて、ご家族同士の話や思い出のスライドショーをご覧になりながら過ごされたようです。またこれから起きる喪失感の乗り越え方なども毎年勉強されています。終了後ご家族が、わざわざボランティアのところに来てくださり「お父さんが皆さんに煎れてもらったコーヒーが美味しかったと喜んでいました」とお礼に来てくださり、「ああ、私が煎れたコーヒーかも」と感謝の思いで聞きました。このように亡くなられた後でも、残されたご家族へのスタッフの丁寧な配慮を嬉しく思います。(坂恵子)

〈基本姿勢と6つのルール〉

開始前に「私たちを受け入れてくださった患者さんの温かいおもてなしに応えられますように」と基本姿勢を確認し、リーダーを中心に6つのルールを宣誓してからティー マッサージ ラウンジに別れ準備を始めます。①時間厳守②無駄話をしない③清潔な髪 手 服装④心と身体が健康でない時は休む⑤ここであった出来事は家族にも話さない⑥身体介助をしない(柴田由紀子)

◆あしがき

勉強会で仏教とキリスト教のそれぞれの宗教家の方からお話を頂けたことは、とても有意義なことだったと思います。見えないものを見る世界を体験したようでした。感想文を読んで思ったことは、グループの人を信じ体験談を話し合っ、癒し癒される場にしておられるのを感じ嬉しかったです。みなさんのお話をお聞きしながら『私はこの人生の主人公』であり、大切なのは生かされている『今』。

ますます寒くなっていきます。体温調整ができる服装を心掛けてどうぞご自愛くださいますように。(永谷美雪)

